

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

平成30年03月23日

計画の名称	水源の里の清流を未来へ引き継ぐ水環境づくり(重点計画)												
計画の期間	平成28年度 ~ 平成31年度 (4年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	真庭市												
計画の目標	下水道整備を行い、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	3,250	A	3,250	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)
1	下水道処理人口普及率を37%(H28)から40%(H31)へ増加させる。 下水道処理人口普及率 下水道を利用できる人口(人)/総人口(人)	37%	38%	40%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	H32				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
下水道事業	A07-001	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(汚水)	新設	久世勝山処理区	汚水管 150 L=15.0km	真庭市						1,300	-	-	
	A07-002	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(汚水)	新設	久世勝山処理区	調査・設計等	真庭市							200	-	-
	A07-003	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(汚水)	新設	落合処理区	汚水管 150 L=15.0km	真庭市							1,300	-	-
	A07-004	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(汚水)	新設	落合処理区	調査・設計等	真庭市							200	-	-
	A07-005	下水道	一般	真庭市	直接	-	終末処理場	新設	落合浄化センター増設事業	オキシレーションディッチ・最終沈殿地増設 = 1池	真庭市							230	-	-
	A07-006	下水道	一般	真庭市	直接	-	終末処理場	新設	落合浄化センター増設事業	調査・設計等	真庭市							20	-	-
											小計							3,250		

A 基幹事業

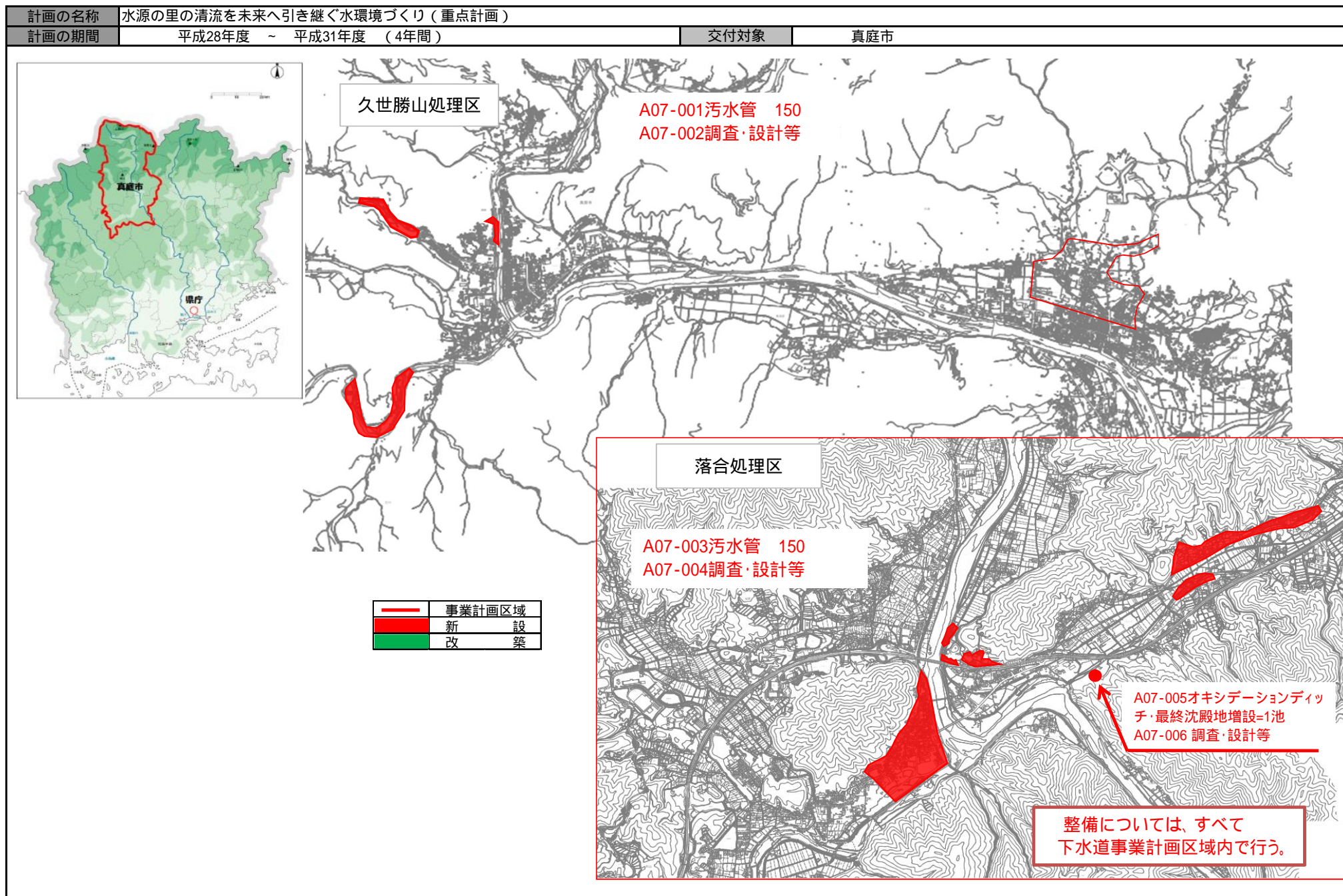
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	H32			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
											合計						3,250		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H28				
配分額 (a)	296				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	296				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	243				
翌年度繰越額 (f)	53				
うち未契約繰越額(g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考図面) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金)



事前評価チェックシート

計画の名称： 水源の里の清流を未来へ引き継ぐ水環境づくり（重点計画）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 都道府県構想（クリーンライフ100構想）に適合している。	○
I. 目標の妥当性 これまで行ってきた、「下水道事業の整備効果工向上を図るための事業の再点検（4つの点検）」の実施結果を反映している。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題を踏まえて下水道整備の目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 下水道整備の必要性という観点から地区の位置づけが高い。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標及び事業内容と下水道事業認可区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業効果をより高めるため、ハード事業とソフト事業を効果的に組み合わせる等の工夫がなされている。	○
II. 計画の効果・効率性 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性 計画および実施に関し、住民等に対する事前説明が行われている。	○
III. 計画の実現可能性 計画および実施に関し、住民等との間で合意が形成されている。	○